

保健教育

佐野 朋子

保健教育における学び続ける子供とは

保健教育における学び続ける子供とは、保健の見方・考え方を働かせながら、主体的に自分の健康課題を見付け、多様な考えに気付き、友達と共に考えを深め、これからの生活の中で、心と体の健康づくりに意欲的に取り組もうとする子供である。

1 目指す子供の姿

保健教育における学び続ける子供とは、保健の見方・考え方を働かせながら、主体的に自分の健康課題を見付け、多様な考えに気付き、友達と共に考えを深め、これからの生活の中で、心と体の健康づくりに意欲的に取り組もうとする子供である。

「保健の見方・考え方を働かせる」とは、身近な生活における課題や情報を、保健領域で学習する病気の予防やけがの手当の原則および、健康で安全な生活についての概念等に注目して捉え、病気にかかったり、けがをしたりするリスクの軽減や心身の健康の保持増進と関連付けることであると考えられる。子供がこの見方・考え方を働かせながら、自分や友達との対話を大切にして学習を進め、健康に関する課題について「自分事」の問いをもち、友達と協働的に解決を図ることで主体的に健康づくりに取り組む子供を目指す。

2 子供の現状と課題（対話に着目して）

これまでの研究から、子供は、自分と友達の生活の仕方や、発育・発達の個人差、不安や悩みへの対処方法等、様々な「違い」に気付いたときに、友達と積極的に対話し、自分の生活を見つめ直しながら課題を見付けたり、解決したりすることが明らかになった。また、対話を通して友達や学級全体での関わりを深めながら学ぶことで、子供は単に知識を記憶としてとどめるだけでなく、学んだことを生かして実践的な健康づくりにチャレンジしようとするなど、主体的に心と体の健康づくりに取り組むことも明らかになった。これらのことから、保健教育における対話の効果は、自己の生活を見つめやすくし、より「自分事」の問いをもちやすくすることや、実践的な健康づくりにおける主体性を高めることであると示唆された。

一方、保健教育における対話の課題として、表面的な話合いや意見の発表会で終始してしまうことが挙げられる。「人それぞれ健康に関する課題は違うのだから」という感覚が先走ると、「どの考え・行動もその人にとっては大切です」と、友達の考えの背景に着目したり、深く掘り下げようとしたりする意欲が高まらないことがあった。子供たちが「自分事」として捉えた健康に関する課題を学級全体の「自分たち事」と捉えることができるように、対話の場面や行い方を効果的に設定することすることが必要である。

3 対話を通して学び続ける子供を育てるための具体的な手立てと想定される子供の姿

(1) 生活経験や健康観の違いを聞き合い、子供が自分の健康を見つめ直す場をつくる

単元の初め、子供がこれから学習する内容と出合ったとき、自分と学習内容を結び付け、「自分事」の健康課題をもつことができるようにすることが大切である。そこで、学習内容に関する学級の友達の多様な生活経験や健康観を聞き合う場を設定し、「自分の生活は本当に健康的と言えるのかな」等と、自分の生活を振り返ることができるようにする。その際、「(健康が大切なのは)分かっているけれど、実際の行動が難しい」等の子供の素直な声を大切にする。このことにより、聞き手の共感が増し、対話がより深まると考える。

(2) 一人一人が課題に対する仮説をもち、試しの「健康づくり」の期間で検証できるようにする

子供が自分の生活を振り返り、「自分事」の健康に関する課題を見付けることは、「なりたい自分」を目標にして、主体的な健康づくりに取り組む第一歩となる。そして、「もっと、～ができる自分になりたい」と期間を設けて、その目標に対する試しの「健康づくり」を行えるようにすることが大切である。その際、友達との対話を通して、様々な方法を比較しながら、より自分に合う行動を選ぶことができるようにする。

また、試しの期間の中間や終了時に、「健康づくり」を振り返って対話する場面を設定することで、効果の検証が深まると考える。その際、学習カード等に記録した心と体の変化が、友達と対話する際の材料となる。

(3) 取り組んだ仮説について、比較検討し、学級全体で考えたいことを見付ける

子供が、自分の取り組んだ解決の方法について、よかったことやうまくいかなかったことについて学級全体で対話して、メリットやデメリットを整理することが大切である。そして、「自分事」の課題から「自分たち事」の課題になるように問いをつくるようにしたい。例えば、プロジェクト学習的に大きなゴールを定めて、協働的に課題を解決するような学習展開である。そうすることで、一人一人の主観的・感覚的な思考から、視野を広げて考え、再度学習対象と関わったり問いをつくったりするなど、主体的に取り組むだろう。また、「自分たち事」の課題を解決するためには、友達との協働が欠かせない。その協働を支えるのが対話であり、このような学習展開を行うことでより対話を生かしながら学びを進める姿につながると考える。

(4) 自分の経験と結び付けて、学習してきたことを振り返るようにする

学級全体で健康づくりに取り組んだのち、個人で振り返る場を設ける。この振り返りによって、学びが一層深まり、子供は自身の健康観を更新しながらさらなる健康づくりへと歩み出すことになる。また、再度、個人の「健康づくり」期間を設け、実践しようとする子供もいるだろう。友達との対話から振り返り、新たな気づきをもって取り組む「健康づくり」は、より自分の健康への願いや目標に近づく深い実践となるであろう。振り返りの充実が生涯にわたって自分の健康の保持増進に向かって学び続ける態度につながると考える。